

8 図書館および図書・電子媒体等

【目標】

学生の主体的学修の促進等を図るために、今出川キャンパス、京田辺キャンパス、それぞれのキャンパスに図書館を配備している。大学における教育研究を推進するためには、図書、学術雑誌、視聴覚資料、電子媒体等の学術情報の整備は極めて重要であり、質・量ともに十分な水準の学術情報資料を系統的に集積し、年々充実させることを目標としている。

また、2009 年度に学芸学部英語英文学科、日本語日本文学科 2 学科の京田辺キャンパスから今出川キャンパスへの移転に伴い、図書館、情報インフラの再整備についても検討を進める。

(1) 図書、図書館の整備

- 図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の体系的整備とその量的整備の適切性（A 群）

本学は、2006年5月1日現在において4学部9学科3研究科を擁し、今出川キャンパス、京田辺キャンパスの2キャンパスを有しているが、それぞれのキャンパスに図書館を配備している。大学における教育研究を推進するためには、図書、学術雑誌、視聴覚資料、電子媒体等の学術情報の整備は極めて重要であり、質・量ともに十分な水準の学術情報資料を系統的に集積し、その充実に取り組んでいる。

図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の整備状況については、[大学基礎データ表41] に示すとおり体系的整備とその量的整備が適切に行われており、過去3年間の図書受入れ状況も [大学基礎データ表42] に示すとおり年々充実している。

学術資料は、利用面から大きく教育用・学習用と研究用に分けられており、購入の際にも学習用と研究用の資料は違った段階を踏んでの購入となっている。

学習用の資料については、学部学生一人あたり 6,000 円の予算を確保している。これを使っての資料購入には、教員及び学生からの推薦や購入希望をもとに図書館所管の選書委員会にて選定を行い、必要と判断された資料を購入している。また、教員・学生から特定分野の資料の不足を指摘された際や、資料の不足を発見した際、資料の陳腐化を発見した際などは、図書館員が書架や利用状況から体系的整備の必要性をチェックした上で整備のための購入を行っている。シラバスに「参考図書」として掲載された図書については、購入出来る範囲内で速やかに購入している。ただし、シラバス原稿回収から授業開始のスケジュールの都合上、4 月の授業開始時まで購入が間に合わないこともあり、シラバス情報の早期入手が課題となっている。

研究用の資料については、専任教員一人あたり 310,000 円の予算を確保している。これを使っての資料購入は各学部・学科にまかされており、学科からの購入申込に応じて図書館が一括して資料を購入している。研究用資料は、図書館に配架されることもあるが、多くは各教員の研究室に配架され研究用に利用されている。これらは研究終了後速やかに図書館に移管され、図書館蔵書として学生などが広く利用することになる。

学部・学科の増設時など、特定の分野のみの資料が大量に必要なことがあるが、その際には書店の協力を得た上で教員が必要な資料を選定し購入する。開設時に特別の予算を組み特定分野の蔵書の充実をはかっているが、特別予算消化後もしばらくは継続的に通常の予算を充当して購入を行っている。

蔵書冊数を学生一人あたりにならしてみると 74.8 冊となる。全国の大学図書館平均の 80.3 冊（日本私立大学連盟の大学図書館実態調査を参考にした）とほぼ等しく、適切な量の資料を提供できていると考えられる。

○図書館施設の規模、機器・備品の整備状況とその適切性、有効性（A 群）

2005 年 10 月に聡恵館（京田辺キャンパス図書館棟）の増改築工事が完成した。学科増設などによる学生増のため図書館全体の規模不足がかねてより問題になっていたが、この工事完成により、京田辺キャンパス図書館の規模が拡大された。床面積は従来 3,626 m²であったものが 6,406 m²に、収容冊数は 235,805 冊から 377,425 冊へと大幅に拡大した。同時に京田辺キャンパス図書館内に 49 台の PC と教材提示装置などを備えたパソコンルームを設置し、館内の情報処理施設の整備を一気に進めた。パソコンルームは通常は利用者が自由に PC を使えるスペースとなっているほか、図書館の利用者ガイダンスにも使用される。

また、別棟分室にあった AV ライブラリーおよび音楽文献室を図書館棟内に統合した。これにより、利用者にとっては AV 資料・楽譜資料・図書資料を同時に閲覧することが可能となった。AV 資料の視聴装置についてもりプレースを行い、VHS / DVD 一体型プレーヤー × 30 台の新規購入など AV ブースの刷新をはかり、その他の視聴覚機器も合わせて 71 ブースを設置し利用者に AV 資料を提供している。

図書館の床面積を学生一人あたりにならしてみると、今出川図書館では 2.941 平米、京田辺図書館では 1.273 平米である。これは全国の大学図書館平均の 1.067 平米（日本私立大学連盟の大学図書館実態調査を参考にした）を上回っており適切であると考えられる。しかし、京田辺では今出川に較べて一人あたりの面積が少なく、今後の地下書庫改造工事により床面積を増やすべく計画中である。

収容冊数を学生一人あたりにならしてみると、今出川図書館では 241.8 冊、京田辺図書館では 75.05 冊となる。全国の大学図書館平均は 98.61 冊であり、今出川図書館はこれを上回り適切な規模であると言えるが、京田辺では全国平均に及んでいない。今後の地下書庫改造工事により収容冊数を増やすべく計画中である。

京田辺図書館では大規模に新しい AV 機器を導入したが、今出川図書館では数量的に劣っ

ているように見える。しかしながら学生一人あたりの台数でみると、京田辺=0.01690 台、今出川=0.01295 台となり、大きくは変わっていない。また、この値は全国平均の 0.007792 台を大きく上回っており、適切な台数を用意していると考えられる。

- 学生閲覧室の座席数、開館時間、図書館ネットワークの整備等、図書館利用者に対する利用上の配慮の状況とその有効性、適切性（A群）

本学の学生閲覧室等の状況は、[大学基礎データ表 43] に示すとおりである。

2005年10月に聡恵館（京田辺キャンパス図書館棟）の増改築工事が完成した。増改築により閲覧座席数はそれまでの444席から570席へと増加した。閉架書庫に多く設置されていたキャレル（個席）開架閲覧室に移し、64席から80席へと増設した。

図書館棟の増改築と同時に、それまで別棟分室に配置されていた AV ライブラリーおよび音楽文献室を図書館棟内に統合した。利用者にとっては、AV 資料・楽譜資料・図書資料を同時に閲覧・利用することが可能になる。統合以前の AV ライブラリーおよび音楽文献室の開館時間は 18 時 30 分までであったが、これを 30 分延長し、図書館と同じく 19 時 00 分までとした。図書館の開館時刻は 9 時 00 分であったが、「授業の開始（9 時 00 分）以前に開館してほしい」との利用者の声が多く、これに対応するため 8 時 50 分開館とした。

現在の図書館の開館時間は、8 時 50 分から 19 時 00 分までである。これに対して「最終授業時限の終了（18 時 15 分）後、1 時間は開館していてほしい」という利用者からの希望に応えるため、2007 年度以降は図書館の開館時間を延長して、8 時 50 分から 20 時 00 分までとすることを決定した。

また、増改築時に図書館内 LAN についても整備をはかった。増築部分の床は、フリーアクセスフロアとし LAN を張りめぐらした。館内での公衆用 LAN コンセントは、36 箇所から 60 箇所へと増設、学生のノートパソコン持込使用への対応を強化している。また、LAN に接続したパソコン 48 台を導入した PC 室を設置した。

効果的な図書館利用を可能とするための学内外の資料の閲覧・貸出、レファレンス等をはじめとする図書館利用のガイダンスについては、「Library Guide（図書館利用案内）」[添付資料（16）]、「学生生活のしおり」にて周知される一方、新入生に対しての図書館利用に関する基礎的なガイダンス、3 年次生に対するデータベースに関するガイダンスが図書館において実施される。また、不定期にデータベース講習会なども開催している。

聡恵館増改築工事により図書館閲覧席数が大幅に増加し、収容定員の 10%以上の席数を確保することが出来た。かねてより座席数不足が指摘されていたが、適切に整備が進められたと言えよう。また、AV ライブラリー・音楽文献室といった学術情報施設の統合や閲覧座席の再配置により学生の主体的学習の促進等が図られたと考えられる。特に、人気のあるキャレル（個席）については、これまでは利用者の少ない閉架書庫内に多く配置しており、無駄が多かったが、開架閲覧室に移動させたことと増設したことにより利用者の要求により近づくことが出来たといえる。

図書館開館時刻を 10 分早めたことにより、1 講時直前に必要な資料を提供することが出来るようになった。また、京田辺校地 AV ライブラリーおよび音楽文献室の閉館時刻を 30 分遅くし図書館と同一時刻とした。2007 年度以降は、図書館の閉館時刻を 1 時間遅くし利用者へのサービスを向上させる。このように、開館時間の面で着実に整備が進められており、学生の学習・研究の場として有効な役割を広げていると考えられる。

図書館内 LAN が充実したことにより情報コンセントを増設した。これにより、学生のノートパソコン持込使用への対応を強化している。ノートパソコンを持ち込んで作業を行う学生は目に見えて増えており、学生の自習環境整備に貢献しているものと考えている。新たに設けた PC 室では、今まで行えなかったネットワークを使つての資料検索などの図書館利用者向けガイダンスが行えるようになり、有効にネットワーク機器が活用されている。

学生に対して、「Library Guide (図書館利用案内) 」など印刷物の配布および、前述の PC 室でのガイダンス実施などで図書館利用者に対する利用上の配慮を適切に行っている。

○図書館の地域への開放の状況 (A 群)

図書館全体としては、地域には開放されてはいないが、2 つの特殊コレクションが国内に広く公開されている。これらは、全国的に稀少でかつ学術的価値も高い資料であり、本学図書館内部のみで利用するだけでなく、広く一般に公開して社会に貢献しようという考えである。

ひとつは、京田辺キャンパスに設置されている「藤田現代音楽資料センター寄贈楽譜」である。これは、かつて東京日仏学院構内の藤田現代音楽資料センターに収蔵されていた楽譜のコレクションであり、1945 年以降 1999 年頃までにフランス国内で初演あるいは出版された楽譜が収められている。ヨーロッパ現代音楽のコレクションとしては日本有数であり、日本ではここでしか閲覧することの出来ないものが数多い。

もうひとつは、今出川キャンパスに設置されている「虎屋黒川家文書」である。これは、長年にわたり宮中の御用を勤めてきた京都の老舗和菓子屋である虎屋に伝えられてきた古文書であり、和菓子の製法や京都の文化の歴史、さらには宮中の文化を伝える貴重な資料である。

これら 2 つのコレクションは、本学図書館の Web サイト上で一般市民への公開を告知しており、一定の手続き後誰でも利用できるようになっている。